

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	O670400340		
法人名	米沢弘和会		
事業所名	サンブラザ米沢グループホームさんさん		
所在地	米沢市大字築沢3470		
自己評価作成日	平成 23年 8月 2日	開設年月日	平成 9年 7月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で、今を大切に生活が送れるよう心掛けています。入居者一人ひとりの状態を常に把握しその方に合った対応をおこなっています。毎日明るく笑いのたえないホームになっています。いつまでも安心して穏やかに暮らせるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、同法人の施設が立ち並ぶ自然豊かな広い敷地の一角に位置し、利用者はゆったりとした時間の中で四季折々の自然を感じながら生活する事が出来る。事業所は開設から10年以上経過し、地域との連携も緊密で、特に隣接する小学校から聞こえてくる元気な声、夕涼みや散歩中の日頃からのふれあい、行事の際の交流が利用者を明るく笑顔にしている。また、同法人の施設とも医療や災害対策、研修会等あらゆる面で連携しており、利用者や家族の安心に繋がっている他、職員は全員、介護福祉士の資格を保有しており、豊富な経験と知識が質の高いサービスの提供に繋がっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 23年 8月 29日	評価結果決定日	平成 23年 10月 3日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念をもとに事業所内で行動目標をかけた、入居者や家族の皆様が安心して、住みなれた地域で生活できるよう実践につなげている。	法人の理念を基にグループホーム独自の理念を作成し、毎年見直しを行っている。また、理念を掲示する等、職員は常に理念を意識することで理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区で行われる運動会やお祭り文化祭に参加を行い交流を図っている。特に地元の幼稚園とは連携を図り、行き来できる環境にある。また、お話ボランティアの来居もあり楽しみの1つになっている。	法人主催の夏祭りに地域の方を招待したり、幼稚園児やボランティアの訪問をうけている。また、近接するコミュニティーセンターでの文化祭に参加する等、地域との双方向的な交流が図られており、特に隣接する小学校から聞こえてくる子供の元気な声や散歩の際のふれあいが利用者を明るく笑顔にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の地域交流室で開催している介護予防教室に参加し、その中で相談に乗ったりアドバイスをを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	さんさん便りを発行し、ホーム内の取り組み等報告している。参加されている方全員の皆様から意見や要望をお聴きし、内容を職員会議等で検討し、サービスの向上に努めている。	市の職員、地区代表、利用者、家族、職員等の参加を得て、概ね2ヶ月に1回開催されている。会議では、日々の利用状況について報告する他、参加者からのアドバイスや要望を受け付ける等、双方向的な会議になっており、話し合われた内容は職員会議等で全職員に周知し、サービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の参加や、定期的に市からの派遣職員2名の訪問時交流を図り意見等をもらっている。また、入居者の皆さんも顔見知りになって来ている。</p>	<p>運営上の疑問点が生じた際には市役所に直接出向いて指示を仰ぐ他、運営推進会議や2ヶ月に1回介護相談員派遣事業で訪問する市の担当者に時間を確保してもらい、日々のサービスについてアドバイスをもらう等、様々な場面を活用し、市との連携を密にしている。</p>		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>法人の教育もあり、職員も理解している。入居者一人一人の思いを大切にし、拘束のない生活を送れるよう寄り添った対応を心掛けている。</p>	<p>管理者及び職員は、身体拘束がもたらす「機能の減退」や「その人らしさの喪失」といった弊害を充分理解し見守りを強化する等、身体拘束をしないで過ごせる努力をしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人の教育あり、各職員理解し、虐待防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>資料等で勉強は行っている。会議で研修予定</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居申し込み時、契約時に口頭や文章での説明を行っている。利用者や家族等が不安に思う事や、心配等を気軽に話しが出来るように心がけ、理解、納得して頂ける様務めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望の記入用紙を設置している。又面会時等に近況報告を行い気兼ねなく話して頂けるように務めている。市からの派遣職員の訪問もあり表せる機会を作っている。意見、要望等があれば、職員会議で検討し反映している。	事業所に意見箱を設置する他、面会時や運営推進会議を利用し、家族からの意見、要望等について把握している。出された意見はミーティングで職員に周知し、運営に反映させている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開催している。そこで出た意見や提案を、地区の管理職会議にもっていき反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間に恵まれ働きやすい環境にある。毎年給与の見直しも行われている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の面接を行い、各職員と向き合っている。職員の現状に応じて研修会に参加している。又資格習得に向けた勉強会も開催している。	職員全員が介護福祉士の資格を保有しており、管理者は、スキルアップシートを基に職員と面接し、介護技術や希望等を勧奨し、それぞれの職員に応じた適切な研修の機会の確保に努めている。また、内部研修ではテーマ毎に担当者を決め講師を務める等、充実した研修が質の高いサービスの提供に繋がっている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修に参加や、GH東北大会に参加をし交流を図り向上に努めている。他事業所と連携を図り、研修会に参加している。	グループホーム連絡協議会に加入し、様々な研修や会議を通じ同業者と交流している。特に交換研修は他事業所とのサービスの違いを認識することで自分達の事業所を相対的に評価することが出来、事業所の更なる質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時、契約時に十分本人から話を聞き、現状までの生活状況を把握出来るように努めている。職員間での意志統一を図り、本人の気持ちに添った対応を心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、契約時に十分に家族から話を聞き現状までの生活状況を把握できるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	近隣施設との連携を図り、最良の支援が提供できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人から得意な事(料理、裁縫、畑等)や趣味等を、コミュニケーションを図りながら一緒に行い楽しく過ごせる環境作りに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密にして、協力してもらえる事は出来るだけお願いしている。又面会時には、現状を報告し、情報の共有を心掛けている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にドライブに出かけたり、面会時に一緒に写真を撮ったりして、それを元にしてコミュニケーションを図っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の状況を観察し、その時、その場に応じた仲間作りを支援し馴染みの関係につなげている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人全体の取り組みにより、退去後も行事等をお知らせする等行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や共に生活する中で、思いや、希望を聴き職員間で申し送る事で、職員全員が把握出来るよう努め検討を行い、その方本位の対応を心掛けている。	時間にしばられないゆつくりとした生活の中で寄り添う心を大切にし、日々の何気ない会話から希望、要望の把握に努めている。また、意思表示が困難な利用者については、表情や仕草、家族からの聞き取りや生活歴等から希望、意向を汲み取り、サービスに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴等、聞き取りを行なっている。各職員は休憩時間や夜勤時間を利用し把握出来るよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや、日々の生活の関わり、毎日の記録、申し送り、ケアプランを通して、現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント作成時、家族の協力を得、一緒に課題を明らかにすると共に希望を取り入れ、会議を開き介護計画を作成している。	毎日のケアチェック表を基に3ヶ月毎にモニタリングを行い、介護計画を作成する際にはサービス担当者会議を開催し、計画作成担当者、家族、関係者等からの意見や要望を勘案し、きめ細かい充実した計画となっている。尚、サービス担当者会議の記録の仕方については、改正に向け検討中である。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人毎にファイルし、具体的に記録を行う。日々の申し送り密に行い、都度話し合い、情報を共有している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>関係施設に訪問したり、行事にも参加してもらっている。又駐在所や消防署との連携も図っている。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に本人、家族と話し合い受診する医療機関を決めている。個人のかかりつけ医にいつでも相談できる体制を作っており、24h対応可能な状態になっている。法人の老健の医師とも連携を図っている。</p>	<p>かかりつけ医は希望に応じて選択出来る他、利用者の希望や状況に応じて通院支援も行われ、診察の結果等は口頭で説明し、情報の共有に努めている。また、地域の医師による往診も行われており、同法人の老人保健施設の医師との連携も併せ、様々な医療関係者と連携し、利用者、家族の安心と、適切な医療支援に繋がっている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医の看護師にいつでも相談できる体制を作っている又近隣施設の看護師にも相談できる体制が出来ており、何かあればすぐに対応可能である。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中、見舞いを兼ね病院の相談員と相談し、家族の希望を聞きながら、病院との連携を図り、早期の退院に向けた働きかけを行っている。又協力医療機関との連携も図っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、将来についての相談を行っている。その都度かかりつけ医に相談し家族とも話し合いを重ねながら対応している。又、近隣施設との連携も図っている	入居の際には法人の方針や基準に従って事業所として出来る事、出来ない事を説明している。また、同法人の老人保健施設を始め、施設や関係機関と連携を図り、利用者及び家族の不安の軽減に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに従い急変事の対応を行っている。又救命救急の訓練にも参加し、実践に役立っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、夜間想定訓練も行っている。又通報システムやスプリンクラーの導入により対策強化している。	同法人の施設と連携を図り、定期的に避難訓練を行い、災害対策の強化に努めている。また、先の震災を受けて、照明器具や食料の確保、その他非常時の再点検を行い、災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることを常に忘れず、性格や生活歴等を把握し利用者一人ひとりに合わせた声かけや対応を行っている。	生活歴や日々の見守りの中から利用者一人ひとりの特徴を見極め、それぞれにあった言葉かけを心掛けている。特にトイレ誘導の際には細心の注意を払い、誇りやプライバシーを損ねる事がないよう気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日頃多く会話や関わりを持つことで、利用者それぞれの表現の仕方を観察している。又自己決定できるように声かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課やレクリエーションに、自由に参加できるような声かけを行っている。又個人の希望やペースに合わせて個別対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みにあわせ、おしゃれや身だしなみが出るよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備や盛り付け、後片付け等を一緒に行っている。又食事中は楽しい会話を持つようになっている。旬の食材を使ったり、食べたい物があれば都度対応している。	食事は3食台所で調理し、献立は管理栄養士に相談しながら畑で収穫した季節の野菜やスーパーと一緒に買いだしに出かける等、利用者に馴染みの食材を使用している。食事や後片付けは押し付けにならないように利用者の状況に配慮しながら職員と一緒にいき、家庭的な雰囲気作りに努め、食事が楽しみになるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と相談しながら献立を作成している。又利用者の状態に合わせて、柔らかくしたり、刻んだり工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、清潔保持にこころ掛けている。義歯はポリデント消毒を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握できるように、チェック表を活用し随時、トイレの声かけ、誘導を行っている。又使用物品の検討も行っている。	排泄チェック表を用いて排泄リズムやパターンを把握し、普段から声かけ、誘導を行いトイレでの排泄や排泄の自立に向け取り組んでいる。また、トイレ誘導の際には、プライバシーを損ねる事がないよう気をつけて声かけしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、繊維質の多い副食、多めの水分補給を促がしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日々の希望に合わせた入浴を行っている。拒否時は時間をずらしたり、臨機応変な対応を心掛けている。	基本的には時間を決めず、日中の希望する時間帯に入浴する事が出来るよう支援している。入浴が苦手な利用者には声かけを工夫したり入浴の時間帯をずらす等、利用者に応じた適切な入浴支援に繋げている。また、事業所のお風呂だけでなく同法人の施設の大浴場も利用し、入浴に変化を持たせ楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や、日光浴を行い、生活のリズムを整えている。疲労の程度を観察し状態に応じた支援を行っている。眠剤を服用せず入眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師からの説明、指示を理解し実行している。変化があれば随時医師への報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族から情報収集を行ったり、生活の中から組みとり、その方に合った役割、趣味、楽しみ等活動を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気やその時の状態に応じ、買い物や散歩ドライブ等を行っている。また、近隣施設との交流も頻繁に行い行事を行なうときも協力をえている。家族の協力もあり、外出や外泊もできている。	日頃から夕涼みや散歩等、外出の機会を確保する他、利用者の希望も取り入れながら、近隣市町村の観光スポットにドライブに出掛ける等、利用者の気分転換に繋がっている。また、家族の協力の下、一時帰宅や墓参り等の要望にも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の要望で、小額の金銭をもっている。個々の状態に応じて事務所で管理している。買い物に出かける機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改築しており、一般の家庭に近い雰囲気作りを心がけている。居間や食堂には、茶箆筒、座卓、テーブルをおき、季節の花を飾ったりしている。食堂もオープンになっているため、料理の時の材料の切る音や匂いなども良い刺激になっている。	民家を改装しているため多少の制約はあるが、障子戸や畳のスペースといった昔ながらの懐かしい家庭的な雰囲気が利用者には安心感を与えている。また、リビングには利用者の作品や季節の花が飾られており、台所の料理の音や匂いを感じながらゆっくりと落ち着いた空間の中で、居心地良く過ごすことが出来る。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂、談話室があり、自由に過ごせるように環境を整えている。馴染みの関係も出来ており、良い関係が保てるよう工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得ながら、使い慣れた小物や家具を配置し、居心地よく過ごせるよう対応している。	利用者には普段使用している鏡台や小物等を持ち込んでもらい、利用前の環境のギャップを感じさせず、居心地よく過ごせる配慮がなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の得意とするところを尊重し、自立した生活が出来るよう声かけ、見守りを行っている。			